

# 大きな木のあるお医者さん こころ・チャイルド・クリニック

## 子どもの言葉の発達についてお話します。

### 乳幼児期の言葉の発達

生後2カ月頃より機嫌のよいとき「あー、うー」などの声が出るようになります。4カ月から8カ月にかけて意味のない言葉である喃語が増加し、1歳半頃より意味のある言葉が始めます。言葉の理解の目安として、指差しができてくるかが参考になります。指差しは1歳〜1歳半頃にみられ、言葉の出現とともになくなってきます。1歳半から3歳にかけて言葉が急速に発達します。言葉の数が増加し、二語文が言えるようになり、多語文、助詞が使えるようになります。

### 言葉の獲得のために

言葉の獲得には生活の流れ、動作に合わせて言葉を使うことが大切です。子どもの行動や気持ちを言語化してあげることを心がけ、ブックブック、ゴシゴシなど擬音語を使うのも効果的です。子どもの興味を引きつけてから、ゆっくり、はつきり話しかける

ようにしましょう。ある程度言葉の数が増えるから、発音の矯正をしていくようにします。テレビやビデオのつけっぱなしは、情報が一方となるためお勧めできません。テレビやビデオは時間を決めて、終わった後に感想を話し合うようにすると、得られた知識や情報がよりふくらみを持つようになります。子どもと向き合ってコミュニケーションをすることを心がけましょう。笑顔で語りかけること、集団に入って同年齢の子どもと遊べる環境を作ることも必要です。

### 読書、音読、作文力

読書は思考力、想像力を高め、情緒を豊かにし、ものの見方、考え方を見つめ直すことから、自己発見、自己改革のために役立ちます。本の読み聞かせは、親子の絆のひとつです。その際、音、音切って強弱やイントネーションをつけずに読むと、日本語の特性や一語一語の意味の理解につながります。自発的に読書ので

きる子どもにするためには、好きな本から読ませる、読んだ本を記録して達成感を持たせる、親も読書の時間を積極的に作るなどの工夫をしてみましょう。音読は、言語感覚、言語表現力を養い、内容把握や黙読力の発達を促します。作文力をつけることは、国語力、知能の発達のためにとっても大切です。子どもが小学生になったら、手紙や日記を書く、コミュニケーションに文章を取り入れる、書こうとする題材に対するメモをもとに文章を作成する、などに取り組んでみましょう。

### おわりに

言葉の遅れは発達障害のサインでもあります。言葉の遅れに加えて、指示が入りにくい、落ち着きがない、集団で人のコミュニケーションがうまくいかないなどの症状があれば、専門機関を受診しましょう。



野村 真二 院長

平成22年9月に小児科開業、平成23年4月に病児保育室を開設。未熟児新生児医療の経験を生かして、心をこめて診療、子育て支援を行っていきます。



こころ・チャイルド・クリニック  
Cocoro child clinic  
4階の病児保育室ちゅんちゅんもご利用下さい  
お問い合わせはtel.082-848-6619まで



●診療日・時間

月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○
14:00~18:00	○	○	○	○	△

14:00~15:00に乳児健診、予防接種を行っています。  
△17:00まで【休診日】日曜・祝日



DATA 広島市安佐南区伴南1丁目5-18-8-301 西風新都ゆめビル tel.082-849-5519

ACCESS 広島バス「こころ産業団地」「こころ西公園」行き「こころ入り口」下車

ゆめビル3階 こころチャイルドクリニック